

st 9に小規模な冷水域がみられ、周辺の水温に比べ表面は0.6~1.7°C低く、200層で3°C低い。  
T-S ダイアグラムによる水塊分析からは黒潮系水であるが、各層水は強流域の50~100 m  
下層水に相当し、湧昇域であることが推察された。また、久米島西方120哩の水溫垂直分布  
からも低温水の上昇がわかる。この現象は昭和50年3月にも観測例があった。

f、第6次航海：観測期間 昭和54年3月27~29日

黒潮は流速1.3~2.2ノット、流幅30~45マイルで1月に比べ流幅は広く、久米島に接近して  
北北東に流去していた。

表面水溫は沿岸域21°C、黒潮域23~24°C、大陸棚上19~23°Cで、平年比0.8~1.7°C高目。表面塩  
分は347~348‰、100 m層は18~23°C、200 m層は14~21°Cであった。20°C等温線は黒潮  
流軸に対応しているようであった。

垂直分布は、伊江島北西方で20°C、348‰の等量線が200 m層まで、10°C、344‰の等量  
線が600 m層まで及んでいる。st 5では180~300 m層が水溫・塩分の水平傾度が大きい。  
久米島北西方ではst 9の100 m以浅に低温、低鹹域がみられ、1月の観測時にもみられた。

st 10では200~300 m層で水溫・塩分の水平傾度が大きい。

## 2. 沿岸定線調査

a、第1次航海：観測期間 昭和53年4月13日（沖縄南部沿岸定線）

表面水溫は前年比2°C前後高目、平年比低目で、3月に比べ約1.5°C昇温した。200 m等深  
線より沖合では、221~232°C、34.79~34.87‰で、中城湾内は21°C台、34.7‰台で沖合  
に比べ低温、低鹹であった。150 m層は、19.6~21.2°C、34.78~34.83‰で、前年比低温、  
やや高鹹であった。

垂直分布をみると表層と中層の温度差は20~23°Cと小さく、まだ躍層はみられなかった。  
島棚から南東5マイルに18°C台、34.7‰の水帯が180 m層まで分布し、10マイル沖は20°C台、  
34.8‰であった。

透明度は、18~28 mであった。

b、第2次航海：観測期間 昭和53年5月18~20日（沖縄南部及び金武湾沿岸定線）

表面水溫は、23.2~25.7°Cで前年比低目、平年比やや低目で、4月比べ約2°C昇温した。  
中城湾口に向かって23°C、34.6‰台の水帯の差し込みがみられ、24°C、34.2‰台の低鹹水が  
その周辺に分布していた。この低鹹水は、観測中の集中豪雨によって一時的に表層にうすく  
あらわれたものであろう。150 m層は、19.4~20.6°Cで前年とほぼ同様。塩分は、34.9‰台  
で前年より高い。

垂直分布をみると表層と中層の温度差は3.6~4.6°Cで小さく、躍層は明らかでないが塩分は  
10~30 m層にはっきりした躍層がみられ、表層低鹹、中層高鹹であった。

透明度は、18~34 m。金武湾内は7 mと極端に低い。

c、第3次航海：観測期間 昭和53年6月13日（沖縄南部沿岸定線）

沖繩地方の梅雨明け直後に観測を実施した。

表面水温は、25.3～27.2℃で平年比、前年比低目。塩分は34.3～34.6‰で湾内を除いて平年比、前年比やや高目であった。150 m層は、19℃、34.8‰台で水温は低目、塩分はやや高目であった。また中城湾口南南東5～8マイルに潮目があり、シイラが曳縄で釣獲された。

垂直分布をみると50 m層以浅で水温・塩分とも水平傾度が大きく、とくに表面と10 m層に1～2℃の差がみられたことから表層水と中層水の混合対流を示していた。今後急速に夏型海況へ移行するものと思われた。

透明度は、30～37 mであった。

d、第4次航海：観測期間 昭和53年8月9～10日（沖繩南部及び金武湾沿岸定線）

今夏は台風の頻発で例年になく涼しい夏が続いている。

表面水温は27.7～29.0℃で平年比低目、塩分は沖合34.5‰台、湾内34.2～34.3‰で平年比やや高目であった。100 m層は21.9～23.0℃、34.8～34.9‰台、200層は19℃、34.8‰台で平年並であった。

垂直分布をみると、50～100 m層に弱い季節躍層がみられた。中城湾沖のst 8～9間に27℃、34.4‰の湾内水と28℃、34.5‰の沖合水の境界がみられた。また、金武湾沖ではst 5付近に湾内水と沖合水の境界がみられ、34.9‰台の高鹹水が沖合から沿岸へ向け差し込んでいるのがみられた。

透明度は25～32 m、金武湾内で14 mであった。

e、第5次航海：観測期間 昭和53年9月25～26日（金武湾沿岸定線）

表面水温は27.9～29.3℃で前年に比べると湾内で低目、沖合で高目であった。50 m層は25.7～26.2℃で前年比低目、100層は20.8～22.8℃で低目であった。200 m等深線と平行にst 5～6間に沿岸水帯と沖合水帯の潮境がみられた。

垂直分布をみると20℃水帯は100～150 m層にみられ、150 m以深は前月及び前年に比べて低目であった。

透明度は16～36 mであった。

f、第6次航海：観測期間 昭和53年10月18～19日（沖繩南部沿岸定線）

表面水温は湾内26.9℃、沖合27.5～27.8℃で、平年比前年比とも高目であった。150 m層水温は、19.8～21.8℃で前年比低目であった。

表面塩分は、平年比前年比とも湾内低目、沖合やや高目で、150 m層塩分はやや高目であった。なお、表面水温は前月に比べ、1.5～2.0℃降温した。

垂直分布をみると、中城湾口のst 9付近に沿岸水と沖合水の明瞭な潮境がみられ、季節躍層は50～80 m層にあり、夏型の弱い成層がみられた。

透明度は沖合で27～33 m、湾内で16 mであった。

g、第7次航海：観測期間 昭和53年11月15～17日（沖繩南部及び金武湾沿岸定線）

表面水温は内湾部24℃台、沖合25℃台で降温が続いていた。塩分は中城湾沖合に346‰台が観測されたが、全般に347‰台で前年並であった。150m層は19~21℃、3480~3487‰で水温は前年同月に比べ低く、塩分は沖合の70~120m層でやや高鹹であった。

垂直分布は、季節躍層が80~100m層付近にみられた。

透明度は12~34mであった。

h、第8次航海：観測期間 昭和53年12月25日（沖縄南部沿岸定線）

表面水温は全般に22℃台で、前月よりも3℃近く降温した。塩分は348‰台で、平年に比べやや高目であった。150m層における水温分布は、20~21℃、塩分は3482~3495‰で水温・塩分とも平年より低目であるが前月に比べ高くなっており、特に水温は1℃近く高い。st 2で前月比+1.3℃、+0.13‰と高温高鹹であった。

垂直分布をみると季節躍層は前月に比べ深くなり、100~150m層にあった。

透明度は26~32mであった。

i、第9次航海：観測期間 昭和54年1月10~12日（沖縄南部及び金武湾沿岸定線）

表面水温は沖合22℃台、内湾部21.8℃で前年同期に比べやや高目、平年比高目であった。

水平分布をみると沖縄南部に22.8℃のやや暖かい水帯が東北東に舌状に伸びていた。また、150m層は20~21℃台で、20℃台のやや冷たい水帯が島棚斜面に沿って北東に伸びていた。塩分は表・中層とも348‰台で前年比やや高目であった。

垂直分布をみると表層と200m層では温度差が小さく、躍層もはっきりしていない。200m層は19℃台で前年比やや低目であった。塩分は3488‰で前年比やや高鹹であったが、垂直分布のパターンは前年同期に類似していた。

透明度は16~37mであった。

j、第10次航海：観測期間 昭和54年2月15~16日（沖縄南部沿岸定線）

表面水温は210~216℃で年間最低温期になった。平年に比べ、沖合で高目、中城湾内で並、表面塩分は3475~3485‰、150m層水温は203~210℃で表面との差は05~14℃であった。

垂直分布は、表層から120m層は21℃台、200m層は188~191℃で平年比やや低目。塩分は50~150m層に3485‰台のやや高鹹な水帯が分布し、その上・下層は3480‰台とやや低くなっていた。

透明度は沖合で24~33mで、湾内で14~15mであった。

k、第11次航海：観測期間 昭和54年3月22日（沖縄南部沿岸定線）

表面水温は219~220℃で前月より0.4~0.9℃昇温した。沖合域は平年比低目、前年比高目。中城湾内は、平年比・前年比とも高目であった。表面塩分は3481~3487‰、150m層水温は、198~209℃で表面との差は1.0~2.6℃であった。

垂直分布は、表層から100mまでは21℃以上、150m層は198~209℃で平年比低目、前

年比低目であった。

透明度は沖合で25~37mであった。

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...